

令和 7 年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要 女性の活躍

女性農業者が様々な役職を務めつつ地域の人々と地域を振興

○氏名又は名称 徳永 順子

○所 在 地 福岡県みやま市

○出 品 財 女性の活躍

○受 賞 理 由

・地域の概要

みやま市は福岡県の南部に位置し、東側の一部は熊本県に接している。市西部の平坦部で米・麦・大豆作や施設野菜などが栽培され、市東南部の中山間地では果樹が栽培されており、特に熊本県に接した山川町で生産されるみかんは「山川みかん」のブランドで有名である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

徳永氏は昭和 56 年に就農し、農業委員会会長を始め、様々な組織の役員や委員を務め、男女関係なく人々を巻き込んで地域の課題解決に取り組んでいる。平成 26 年にご子息が就農し、徳永氏夫婦とキウイフルーツやぶどうなどの果樹を中心に営農している。

・受賞者の特色

(1) 耕作放棄地の解消

徳永氏は、平成 14 年に農業委員に就任以来、他の農業委員に声を掛け、農業委員を中心となって遊休農地の解消に取り組み、平成 26 年度から昨年度までに 11.4ha が解消された。再生した農地の一部には、景観改善のため菜の花栽培を導入し、なたねを使用したオイルやマスターードも開発した。

(2) 「山川みかん」産地継続に向けた土地基盤整備

令和 4 年に山川地区土地改良区理事となり、事業の勉強会、地権者や耕作者への同意を得るための説明会など 200 回を超える会議を実施し、果樹では福岡県初の農地中間管理機構関連農地整備事業による区画整理が行われ、基盤整備面積は全国屈指の約 60ha となり、新たな入植者を含めた中心経営体への利用集積、経営規模の拡大等を支援し、将来にわたる「山川みかん」の産地継続を図った。

(3) 資源循環と女性活躍の場「ルフラン」

平成 25 年に市の環境審議会委員に就任した。生ごみをメタン発酵するバイオマスセンターで生成される液肥の農業への活用を進め、資源循環のまちづくりに寄与している。併設された食品加工室やカフェは交流拠点となり、同時に雇用創出の場となっている。ここでは起業を志す女性を市内外から受け入れ、5 名が開業するなど施設を起点とした地域振興に繋がっている。

・普及性と今後の発展方向

みやま市農業委員会では 5 名の女性委員が誕生し、現在、次なる課題である荒廃竹林の解消に向け、市とともに伐採した竹を土壤改良資材として活用する取組を実施中である。地域の資源を最大限活用し、地域の人とともに課題を解決し、地域振興を図る取組は他の模範となるものであり、今後の活躍も期待される。